



2022

7/31(日)

13:00~15:30

嚥下造影検査を行う前に 言語聴覚士として 実施しておく観察や評価 —嚥下動態理解の仮説立案に 向けた視点と実際—

講師 柴本 勇先生(聖隷クリストファー大学)

嚥下造影検査は、ゴールドスタンダードとして多くの情報が得られ、病態理解をはじめ、リハビリテーションプログラム立案や訓練効果の検証に役立ちます。しかし、基礎的情報がないまま実施すると得られる情報が限られます。Best Swallow や Worst Swallow に代表されるように、嚥下は環境や体調によって変化します。その時のみの状態を知るだけでは、その後の摂食への支援や訓練プログラム立案に十分とは言えません。摂食嚥下障害を治療訓練する専門家としては、その方の本質的な課題を検証することや可能性を見出すことを嚥下造影検査に求めることが望まれます。本質的課題の検証ができることで、効果的な訓練プログラムの立案や訓練の提供ができます。それを実行するためには、嚥下造影検査前にあらかじめ嚥下動態の仮説を持ち、仮説検証的検査として検査に臨むことが重要です。本技術セミナーでは、嚥下造影検査を行う前に観察や評価によって嚥下動態仮説を持つために知っておくポイントを解説します。同時に、ポイントとなる点の具体的評価手技を学びます。

【対象】

言語聴覚士 ほか

【参加費】

言語聴覚療法臨床研究会
会員 無料
非会員 3,000 円

【定員】

250 名

【申込締切】

2022 年 7 月 25 日 (火)
定員になり次第締め切ります。

【申込方法】

当研究会ホームページ
または下記の QR コードからお
申し込みください。

